



山ぼうし

— 友愛・協調・責任 —

山ぼうしは「立志の樹」といわれ正門脇の「山ぼうし小庭園」には『花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし』の碑(初代PTA会長の盛合聰氏揮毫)がある。

宮古工業高等学校校報 第6号 2016.8.18

生き抜くために

校長 及川晃貴

7月、津波模型の贈呈式のため高知県を訪問しました(詳細は次項参照)。その際、参集した須崎工業、須崎高、室戸高の生徒たちに挨拶をする機会がありましたので、その要旨を紹介します。

『人間は目前に危険が迫るまで、その危険を認めようとしぬ心理傾向を持つ。これを「正常化の偏見」という。宮古工業の立体模型による疑似津波実演の取組は、この危険を無視しようとする心理に打ち勝ち、いざというとき率先して避難行動ができるようにするもの。』

『岩手県では、「いわての復興教育」プログラムを作り、「いきる(命の大切さ)」、「かかわる(人と人のつながり、絆)」、「そなえる(防災)」を合言葉に全ての学校で取り組んでいる。たとえ大災害が起ころうとも、必ず生き抜き、未来を担っていく「人づくり」を進めているところ。』

今回の交流が、高知の高校生たちの防災意識の更なる高揚につながり、地域を巻き込んだ活動の発展・充実に役立てば、このうえない喜びです。

* * *

○高知県・須崎工業高校を訪問

津波模型班

7月22日(金)に津波模型班4名が高知県立須崎工業高校を訪問しました。これは、昨年度の先輩たちが手がけた「高知県須崎市周辺津波模型」が完成したことから、現地で実演を行ったもので、持参した模型は、津波防災の取組に役立ててもらうため須崎工業高校に贈呈しました。



授業プレゼンの紹介

当日の実演会には、須崎工業高校のほか、須崎高校、室戸高校の生徒たちが参加。実演をとおして「津波の危険性をリアルに実感できた」と述べていました。



現地は南海トラフ地震の被害予想地域であり、皆で備えの大切さを確認し、有事の際に

高知県内3校参加



は全員が必ず生き抜くことを約束しました。

さらに高知県教育委員会学校安全対策課の課長補佐さんや須崎市の副市長さん、教育長さん、消防署長さん等も参加され、高い関心を寄せていただきました。また、地元テレビ局や新聞社など報道各社から取材を受けました。

← 須崎工業の先生方は「造波装置」の仕組みに興味津々で、山野目先生の説明に聞き入っていました。

○中学生の高校一日体験入学



7月27日(水)に、15校の中学校から119名の生徒の参加を得て、一日体験入学を開催しました。

旋盤加工の実演



初めに学校紹介ビデオを見た後、3班に分かれて機械科、電気電子科、建築設備科の学

電気工事の実習



習内容について、ローテーションを組んで見学や実習体験をしました。

空調装置の運転

○女子高生ものづくり体験実習



この夏も、8月2日(火)～5(金)までの4日間、(株)エフビー様(山田町)の全面的な協力により、女子生徒を対象にした体験実習を実施しました。

金型設計から始める本格的なものづくり体験をとおして、国内第3位の出荷額を誇る本県の宮古地域の金型・コネクタ産業について理解を深めつつ、ものづくりの楽しさを実感する体験実習となりました。

○北陸学院高校と交流試合



石川県高等学校野球連盟の「東日本大震災被災地支援事業」により、石川県の北陸学院高校硬式野球部が宮古を訪れました。



この事業は交流試合などをおして被災地復興を支援するもので、8月2日(火)は本校硬式野球部と、翌3日(水)は宮古水産・岩泉・山田・本校の合同チームと試合を行いました。石川県の強豪校である北陸学院高校との交流試合は、内容がたいへん濃く、貴重な経験を得ることができました。



<会場：山田町総合運動公園野球場>

☆9月の主な行事☆

- 4(日) 第三種電気主任技術者試験
- 6(火) 木曜日授業
- 7(水)～12(月) 第2期定期試験
- 16(金) 職試験開始日、基礎製図検定
- 21(水) 津波防災出前授業(津波模型班)
- 23(金) 特別休業日
- 27(火) 生徒会役員選挙
- 29(木)～30(金) 金沢北陵高校交流事業

スクールカウンセラー来校日 13(火)、26(月)

○「サマーフェスタにいさと」で演奏



8月6日(土)、新里トレーニングセンターで開催された「サマーフェスタにいさと2016」に太鼓部が出演しました。フェスタの開幕演奏として、遠洞隼人くん(E3)、佐藤喜紀くん(E3)による「一心太鼓」が披露されました。



地元出身の遠洞くんは来場者の皆さんから大きな声援を受け、今回が初演となる佐藤くんは手の血豆をつぶしながらも演奏をやり抜き拍手喝采を受けました。

部員が減り、演奏曲を遠洞君が2人用に編曲するなど、自分たちで困難を乗り越えながら太鼓に取り組む姿勢は天晴れです。

○岩手大学教育学部学生訪問



8月8日(月)岩手大学教育学部の学生・院生18名が来校し、津波模型班の生徒たちと交流しました。今回は、大学の開設科目「いわての復興・教育」の現地実習で宮古を訪れたもので、その一環として本校の津波模型実演を見学しました。



今回、参加した学生たちに津波被災の経験者はおらず、現地実習をおして被災地の現状を知り、津波防災や避難行動の在り方を学ぶとともに、次代の教師を目指す者として、担う役割の大切さと責任の重さについて真剣に考察していました。

編集後記

先月の授業納め式で、「高校生の夏休みとは、授業日にはなかなか取り組めない課題にチャレンジする期間」と話しました。実践報告が楽しみです。(及川)